

自主防災組織の活動について

岩出市では、地震や風水害などの大規模災害への備えのひとつとして「自主防災組織」の結成を推進しています。

大規模な災害が発生した場合、消防や警察、行政機関などのいわゆる「公助」の機能が分散・低下する可能性があります。そういった場合、自分や家族の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分達で守る「共助」が大きな力となります。

「自主防災組織」は区・自治会などを母体として組織され、地域での訓練や啓発等の活動を実施いただいております、「共助」の大きな力となります。

避難行動要支援者について

◆地域で避難行動要支援者を守ろう

高齢者や障害のある方は、自分ひとりで避難することが難しいため、地域の皆さんが協力して、助け合いましょう。常日頃からコミュニケーションを図っておくことも大切です。

◆高齢者・病人

- ・まず声をかけ、サポートして欲しい方法を聞いて支援する。
- ・手をつないだり、おぶったり担架を利用したりするが、本人が安心する方法が大切。



◆目の不自由な人

- ・まず声をかけ、杖を持った人の手はとらず、ひじや二の腕、肩に触れてもらい、半歩前あたりを歩いて誘導する。
- ・階段など次の行動に入る前には必ず言葉で伝える。
- ・できるだけ状況を言葉で具体的にイメージできるように伝える。



◆知的障害のある人

- ・声かけをし、落ち着かせる。
- ・状況の理解が難しい場合は、手を引くなどして誘導する。



◆耳の不自由な人

- ・まず、見える位置に立って、来たことを伝える。
- ・手話・筆談・身振り・空書(空中に書く)・手の平に書く・口話(少しゆっくりはっきり口を開けて話す)
- ・図や絵などを総合的に使って伝える。
- ・お互いに顔を向き合う形で伝え、安心感を持ってもらうことが大切。



◆車いす利用者

- ・階段や坂は、上る時は前向きで、下りる時は後ろ向きにして移動し、3～4人で対応するのが良い。担架を利用する場合もあるが、恐怖感を与えないことが基本となる。



◆脳性マヒで言語障がいのある人

- ・単語の一つ一つを聞き取り、メモを取って最後に確認する。聞き取れない場合は、何度も聞き返して意思の疎通を図る。

◆精神障害のある人

- ・ゆっくりと声かけをし、状況を伝える。
- ・本人の様子を見守りながら落ち着かせる。

◆旅行者・外国人

- ・身振り・図や絵・簡単な日本語などを総合的に使用し、意思疎通を図る。

わが家の防災メモ

避難所を確認しておきましょう！

家族の避難所			家族の集合場所	
第1避難所	第2避難所		第1集合場所	第2集合場所
家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校等の電話番号	携帯番号

この地図は、岩出市長の承認を得て、同市所管の測量成果岩出市平面図(1/2500)を使用して調製したものです。(承認番号 平成30年9月3日 岩土木第295号)
 「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平29情使、第444-A252号)」
 「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平29情使、第445-A180号)」